

第 42 期 3rdQ GL 会議スピーチ

2014 年 10 月 3 日

『関西事業所プロジェクトについて』

39 期 4thQ の GL 会議でゆくゆくは全社統合できるビルを建てたいということをお話しました。これについて今は考えが変わっているので、お話しておきます。

東日本大震災があつてから、リスク分散の必要性を強く意識するようになり、関西拠点もその流れでプロジェクトを進めています。以前は早渕生産管理棟の設備キャパシティが売上 X 億円以上になると足りなくなるという想定から、能力を倍増したクリーンルーム (CR) の建設が必要になり、それはイコール大きな自社ビルであると考えていました。ただ、その後ハウス生産品注 1 の輸送問題などが起こり、関西でハウス生産をこなす必要性が生じたとき、早渕同等規模の CR が関西にあることで災害リスクの分散ができ、早渕の設備も延命させることが可能になると思いつきました。もともと早渕生産管理棟は場所の問題から売却が難しく、近所の単純な工場形態の建物と違って CR を 2 つ持つビルは使い回しがしづらい面もあり賃貸資産として収益化するのも難しいです。同様に売却するにしても特殊な機能のビルは需要が限られ、二束三文になってしまいかねないです。そのような理由で売上 X 億円を超える将来に備えて関西拠点を作ることにしたわけです。これによって全社統合は敢えてせず大災害へのリスク分散対策を取ることにしました。

39 期 4Q 会議では、全社統合自社ビル建設を見据えながら、その前に技術部を本社と統合することを話しました。早ければ 2015 年、無理ならば 17 年、遅くとも 19 年には本社と技術部を統合するという考えを披露しましたが、これは予定通り実行するつもりです。実は、6 月初めにかねてからターゲットにしていたビルに空室がでる予定だと業者から知らせが入り、内覧までしたのですが、ご存じのように今年は 8 月以外すべて赤字の状態のうえ、関西拠点プロジェクトが発動していたので収入と支出の問題で泣く泣く断念しました。やはり売り上げと利益は大切です。キャッシュがないとどんなに戦略を立てても実行ができません。本当に悔しいですね。下半期は黒字が見込まれますが、問題は通期で利益計上できるかということです。Y 社で 80s の正式採用に向けて諸々の困難もありますが前進しています。次世代継手でもコーターデベロッパーでデファクトスタンダードを死守し、その勢いを駆って継手需要の大きな半導体洗浄装置へも標準採用を勝ち取りたいと思います。そのための関西拠点です。売上 Z 億円で業界シェア 1 位に返り咲くための事前準備が関西拠点の建設です。

宜しくお願いします。

注 1 ハウス生産とは、フロウエルの溶着継手 70 s を曲げチューブに溶着して配管ユニットを顧客図面に沿って作成し納品するサービスの事。製品が長尺であり、注文が増えるにつれ、フロウエルが通常出荷に使用している宅配車への混載は限界が来ていた